平成２７年度学生海外ＰＢＬプログラム

実施報告書

行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

弘前大学人文学部：「弘前×フランス」プロジェクト

〔複言語・複文化教育プロジェクト（フランス語モデル）〕

平成２７年度 学生海外ＰＢＬプログラム実施計画

行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

１．位置づけ

「弘前×フランス」プロジェクト（弘前大学人文学部「複言語・複文化教育プロジェクト」〔フランス語モデル〕）の海外プログラムとして位置づけ、本年度より試行した同プロジェクトの授業化（プロジェクト型地域志向科目：欧米文化コース特設講義「地域と世界をつなぐ」）とあわせ、新人文学部カリキュラム「多文化共生コース」や「トラベルスタディーズ」について、海外 PBL、海外短期研修の可能性・成果と課題を検証する機会としても活用する。プログラム終了後、参加学生全員に報告書（PBL 自己評価とプログラムそのものについての課題、改善点）の提出をもとめ、それらを総括した報告を学部長に提出する。

２．事業目的

複眼的・多元的思考や発想へと結びつく多様性の認識、多様性の受容（異文化に対して胸を開いていく感性の育成）、①地域の文化を調べて発信する活動、②現地学生との協働作業と交流活動、③現地の文化と伝統についての取材活動　をつうじて、外国語の運用能力の実践（あるいはそれを高めることへのモチベーション向上）、複眼的・多元的思考へと結びつく多様性の認識、多様性の受容（異文化に対して胸を開いていく感性の育成）、ツールとしての語学ではなく相手をより深く知りたいという気持ちに支えられた現地言語への学習意欲、地域を知り、それを世界とつなぐ力」、「世界を知り、それを地域につなぐ力」を育てることを目的とする。

３．事業概要

【旅程】

月日	発時間	着時間	行程	乗り物	所要額	目的
10月15日	0735	0855	青森－羽田	AIR	A+B	移動
10月15日	1035	1610	羽田－パリ	AIR	A+B	移動
10月15日	2125	2240	パリ－ボルドー	AIR	A+B	移動
10月15日			ボルドー泊		E+F	
10月16日			ボルドー泊		E+F	PBL実施
10月17日			ボルドー泊		E+F	PBL実施
10月18日			ボルドー泊		E+F	PBL実施
10月19日			ボルドー泊		E+F	PBL実施
10月20日			ボルドー泊		E+F	PBL実施
10月21日			ボルドー泊		E+F	PBL実施
10月22日	1525	1645	ボルドー－パリ	AIR		移動
10月22日	2155	1630	パリ-成田	AIR		移動
10月23日			成田－羽田	リムジン		移動
10月23日	1940	2100	羽田-青森	AIR		移動

４．事業の内容

出発前の事前活動、①地域の文化を発信する活動、②現地学生との協働作業と交流活動、③来年度プロジェクト（主に来年度９月の「弘前×フランス」週間）での地域への還元を目的とした現地文化・伝統についての取材活動を課題とした。

【課題１】：地域を知り、それを世界とつなぐ

学生目線でセレクトした手工芸品の実物展示、地域文化・風習・場所を選んでレイアウトし、地域の魅力を発信。これまでの活動で製作したリーフレット、「弘前直送便セレクト集」等の発行物も持参し、活動そのものも発信。

昨年度、弘前大学グローカル人材育成プログラムに採択され実施した海外 PBL において関係を築いたボルドー中心市街地の Maison du Japon の会場提供を受けて実施する。

【課題２】：世界を知り、それを地域とつなぐ

来年度 9 月「弘前×フランス」週間中に中三ガレリアで開催予定の「ひろさき・ゆかりのフランス地方紹介」展および同時期発行予定の「フランス直送便」２号のための取材活動を実施する。

５．派遣者

参加者：人文学部３年　小田切 雅熙、
　　人文学部２年　　相澤 裕斗、小笠原 詩帆、小野 梨理子

随行教員：人文学部　熊野真規子、小野寺 進

６．実施期間

2015.10.15～2015.10.23　9 日間

２０１５年度弘前大学地域未来創生センタープロジェクト
「弘前×フランス」プロジェクト（複言語・複文化教育プロジェクト【フランス語モデル】）
海外 PBL :「弘前×ボルドー」プロジェクト報告

人文学部　熊野真規子

事業の目的 : 複眼的・多元的思考や発想へと結びつく多様性の認識、多様性の受容（異文化に対して胸を開いていく感性の育成)、ツールとしての語学ではなく相手をより深く知りたいという気持ちに支えられた現地言語への学習意欲、地域を知り、地域を発信し、受け取ったものを地域に還元するという世界を地域へつなぐ気持ちを育成する。

事業の経緯 :「弘前×フランス」プロジェクト（弘前大学人文学部「複言語・複文化教育プロジェクト」【フランス語モデル】）は、本年度前期よりプロジェクト型地域志向科目 :「地域と世界をつなぐ」として授業化を試みた結果、フランス語履修者以外にドイツ語履修者、中国語履修者の参画を得た。「地域と世界をつなぐ」ことに興味を持つ学生らが【フランス語モデル】を通じて、取材活動（リーフレットの発行)、９月末の「フランス日和〜マルシェ 2015」(履修生が立ち上げた団体「弘前グローカル・アクション」により、「まちづくり１％システム」採択）を実施し、昨年度を上回る成果をあげることができた。

この度の**「弘前×ボルドー」プロジェクト**は、その海外プログラムとして位置づけ、上記活動を経験した学生から有志４名が参加した。参加学生の成長に加え、成果を地域につなぐ事後活動にも期待するものである。

事業の内容 : 出発前の事前活動、①地域の文化を発信する活動、②現地学生との協働作業と交流活動、③来年度プロジェクト（主に来年度９月の「弘前×フランス」週間）での地域への還元を目的とした現地文化・伝統についての取材活動を課題とした。

【課題１】: 地域を知り、それを世界とつなぐ

学生目線でセレクトした手工芸品の実物展示、地域文化・風習・場所を選んでレイアウトし、地域の魅力を発信。これまでの活動で製作したリーフレット、「弘前直送便セレクト集」等の発行物も持参し、活動そのものも発信。

昨年度、弘前大学グローカル人材育成プログラムに採択され実施した海外 PBL において関係を築いたボルドー中心市街地の Maison du Japon の会場提供を受けて実施。

【課題２】: 世界を知り、それを地域とつなぐ

来年度９月「弘前×フランス」週間中に中三ガレリアで開催予定の「弘前ゆかりのフランス地方紹介」展および同時期発行予定の「フランス直送便」2 号のための取材活動を実施する。

事業の成果：

Maison du Japon 会場提供、告知面での協力、レイアウトアドバイス等も受けたおかげで、一日限りのイベントではあったが 200 名以上の来場者、アンケート協力 100 名弱を得ることができた。「北日本のことについて初めて知った」C'était la découverte!という言葉を投げかけられたが、この言葉は 9 月に来弘したボサール氏、ブーヴロン村長からも投げかけられた言葉で、北日本全体の発信が日本で遅れていることを実感させるものである。とくに福岡市と姉妹都市であるボルドーで北日本、青森県、弘前市、津軽地域の情報を発信できたことは、日本に興味を持つボルドー市民にとっても意義深い事であったと思われる。日本旅行のリピーターにも次はぜひ弘前に行きたいと言われ、特にお勧めの季節などを尋ねられた。

アンケート集計結果を WEB で公開するまでにはもう少し時間を要するが、とりわけ「津軽三味線」ライブはイベントに多くの人を引き寄せる力にもなった。

取材活動については、港湾都市として繁栄した商都であることや、パリよりも古い歴史、世界遺産としてのボルドー市内の歴史散歩、アキテーヌ博物館、サンテミリオン（世界文化遺産）にマカロンを中心とした取材、ボルドー・モンテーニュ大学キャンパス取材、大学から最も近いシャトー・パップ・ド・クレマンにワイン醸造の取材などを精力的に行った。

ボルドーといえばワインのイメージしか持たない通常の日本人ことを残念に思っている現地の人からは、ボルドーの奥深い歴史に興味をもって取材したことに対して、感謝の言葉を伝えられ、おかげで惜しみない協力を得ることができた。

取材成果については、来年度 9 月の展示と「フランス直送便」2 号を楽しみにしたい。

https://www.facebook.com/media/set/?set=a.931972600184156.1073741873.251112538270169&type=3

https://www.facebook.com/251112538270169/videos/vb.251112538270169/933462716701811/?type=3&theater

LES ARTS

LES ARTS

2015 年度　海外 PBL の随行と所見

小野寺　進

１、教員の随行

海外が初めてという PBL に参加の学生たちに随行しましたが、教員は今回が２回目ということで、スケジュール通りにプロジェクトを進めることができました。今回再確認した通り、教員の随行なしで、学生が単独で海外 PBL を実施することには無理があるように思われました。今回も特に初めての海外ということで、学生が空港内での移動や目的地での交通手段や滞在生活にサポートがないとプロジェクトそのものに集中できないようでした。恐らく旅慣れた学生であっても、プロジェクトや研修に集中するにはある程度のサポートは必要かと考えます。

２、海外 PBL の遂行：イベントと研修

弘前を早朝に出発して、目的地であるフランス、ボルドーに到着したのは夜遅くで、滞在先に辿りついたのは真夜中を過ぎになりました。初めての海外でしかも長旅で疲れているにもかかわらず、学生たちは翌日からプロジェクト遂行のための準備を開始し、イベント開催会場である「日本館」(Maison de Japon)に挨拶と会場の下見と設営準備に赴きました。翌日のイベントでは展示やワークショップ、そして三味線演奏で弘前市および津軽の魅力についてアピールしました。200 名を超える来場者で、特に３回行われた三味線の演奏会では立ち見が出るほどの盛況でした。学生たちも学習したフランス語を交えながらの説明やボルドー市民との交流をすることができたようです。サンテミリオンでのマカロン取材とシャトー・パップ・ド・クレマンでのワイン製造取材では、学生たちはイベントの疲れは残っているものの、積極的に取材活動を行いました。この成果は来年度の弘前でのイベントで披露する予定です。

３、国際交流

学生たちはまたボルドー大学を訪問し、大八島という日本語サークルで、ボルドー大学の学生と交流すると共に、現在ボルドー大学で開講中の日本語の漢字のクラスに参加し、他国での言語の学習の仕方を学ぶと同時に、フランス人受講者の日本語学習の補助的役割も果たしました。

またボルドー大学のツーリズムを専攻している学生に市内の歴史散策をしていただきました。世界遺産であるボルドーの歴史や文化的価値などのレクチャーを散策しながら学生たちはメモを取りながら熱心に聞き入ってました。

最後に滞在先では大八島のサークルメンバーがフランス風サンドイッチを作ってくれるなど、食の文化交流も果たし、満足のいく交流ができたようでした。

４、今後の活動について

　こうした活動は続けないと意味がないと考えられます。ボルドーでは、前回に引き続き、今回もイベントを開催したことで、弘前市や津軽の文化、さらには日本などに関心を抱く人が増え、日本へ行った時は弘前市を訪れたいと語るフランス人もいました。またボルドー大学の学生も学生が訪れることで弘前に関心を持つようになってきています。できることなら、ボルドーのみならず、アメリカ、イギリス、ドイツなどでもこうした PBL の活動ができるようにしたいと考えます。

以上

→次ページ：参加学生による実施報告書

学生海外 PBL プログラム

行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

実施報告書

弘前大学人文学部３年
小田切　雅熙

このたび、下記のとおり海外 PBL プログラムを実施しましたので、ご報告申し上げます。

１．PBL における事前活動

①目標：

日本館での展示やワークショップに備え、万全の準備を整える。

②成果：

市役所から展示に使用するパンフレットやポスターを頂いたり、イシオカ工芸からは津軽塗の折り紙の提供、リンゴの形の入れ物をお貸しして頂けた。また、愛宕地区の津軽竹籠職人の方への取材などもでき、新たに発見や繋がりができたと感じる。

③課題：

展示を決める際に最終的に多数決のような感じになってしまい、誰かが強く推すとかが無く、責任の所在が浮いていた。

９月末のイベントに追われ、本格的に動き始められたのが２、３週間しかなかった。向こうの方（日本館の方、弘大に来ていた留学生、昨年度お世話になった大八島の方等）との連絡が間接的であった点、共有なども不十分なところも見られた。

２．日本館での活動（10 月 17 日）

①目標：

多くの人に弘前の魅力が伝えられる工夫しながら、自身も楽しみながら行う。

②成果：

津軽三味線の演奏を担当する 2 人が店内外で練習をしていたのもあり、通りすがりの方なども立ち寄ってもらえた。それにより予約をとっていた三味線のコンサートや折り紙のワークショップも予定以上の人が集まった。

200 人以上の来場、およそ 100 人分のアンケートが得られた。

ワークショップでは折り紙折れる人折れない人、日本語がわかる人わからない人など様々な人がおり、様々なコミュニケーションをとり方が必要に感じられた。また、日本館で日本語学んでいられる方や、大八島の方等の日本語の上手さに目を見張った。

③課題：

当日予定していた集合に遅れたこと。時間管理がなっていなかった。

当日、自分がプロジェクターやコピー機などの機械類の確認して、その後ほとんどを折り紙の方についていた為、展示のほうで回ることができなかった。

ワークショップでは全員同時に同じものを折っていくのがメインであったので、こちらが折っている人のペースに合わせられればもっと多くの人に体験してもらえたのではないかと思われる。しかし人手もそれなりに要るので、フランスに留学している弘大生などにもっと協力を仰ぐ必要がある。

自分が言葉よりジェスチャーが先に出てしまいがちであったので、行く前から練習をしておければよかった。

３．サン＝テミリオンでの取材活動

①目標：

サン＝テミリオン地方のブドウ畑に取材を行うと共に、マカロンや教会等についても取材を行い、サン＝テミリオンを多方面からとらえる。

②成果：

サン＝テミリオンでのマカロンは、見た目がよく見るマカロンの半分（ハンバーガーのパンの形）で、クッキーのようにサクサクとした食感をしていた。また、よく見る　マカロンはサン＝テミリオンのマカロンとは全く別物で、パリで独自に創られたマカロンであるということがわかり、新しい発見が得られた。

歴史的な建造物での螺旋階段は狭いうえに急で暗く、注意が必要であるし、上りと下りが鉢合わせた時の対応など考えさせられた。

建造物に引っかいて描いたと思しき落書きが多々見られた。フランスでは意外とそういうものが見られ、遺産や文化財の保全について考えさせられる。

③課題：

電車が数本しかないのもあり、時間的な制約があったので結果的に取材ではなく街を周って写真を撮っただけに近い内容になってしまった。また、シャトーの見学も日時が合わず出来なかった。1 日丸ごと使ってでも取材が出来ればよかったと思う。

11 時からの開店の店が多かったが、サン＝テミリオンのマカロンの本家と言われる店は 8 時開店であったので、そこを事前に把握できていれば時間をもっと有効に使えていた。

４．シャトー見学

①目標：

ボルドーのワインはどのように作られているかをまず学ぶ。少しでも興味の湧くトピックを探す。

②成果：

シャトーを観光資源として見学できるようにしているだけあって、畑以外にも芝生や木等の庭の景観にも工夫がなされており、シャトーに対する情熱が感じられた。

ガイドのお姉さんがフランス語、英語で対応してくださり、また資料も両方用意されていた。今回、自分たち以外にも他の欧米の国からの見学者がいて、今後活動を行う上での参考になった。

③課題：

自信の無さから質問が積極的にできなかった。

他の見学者で、ワインの試飲目的で来ていて、ガイドをスルーしていた人たちがいた。

見学や取材するときの態度について考えさせられた。アルコールがダメで試飲をしなかったが、失礼でなかっただろうかと思うところもある。

5．自己評価

①準備：60 点

イベントでの方に気を回し過ぎて、PBL での準備が不十分になった。しかしながら、イベント関係で交渉関係のことを色々と行っていたので、物品を借りた時の際には十分役立てられた。

②日本館でのイベントへの貢献：70 点

物品の用意や、展示の準備や折り紙のワークショップではまあまあ動けたと思う。しかし他の人に比べたら大したことはできていない、と思う。相澤君、折出君の三味線のように何か技能を身につけて置けばよかったと感じるところがあった。

③現地の人とのコミュニケーションなど：70 点

なるべくフランス語を使い、英語は使わないように心掛けた。しかしながら、しばらく喋ったりしないせいで衰えが目立ち、たどたどしい感じであった。お店での挨拶など忘れることなくできたので、最低限のことはできた。

大八島の方とはみんなと一緒にコミュニケーションをとって、1 対 1 のようなことはあまりできなかった。

④チーム内：75 点

学生内で年長ということでリーダーになったが、リーダーより年長者として周りのフォローに回っていたことの方が多かった。

食事などの準備も積極的に手伝い、結果的に目玉焼き担当をすることになった。

6．PBL 全体の感想など

初の海外で、自分の好きなフランスということもあり今回は非常に貴重で充実した経験になった。

学生主体の今回の PBL だったが、準備期間の短さなどもあり先生方に頼ることも多々あったりと（通訳、道中のチケットなどの手配、朝食の準備など）、まだまだ社会人として未熟な所も感じた。もし海外経験のないメンバーだけで行くならば相当準備や心構えがいるし、現地でも大変だろうと思う。学生主体と言っても先生方の関与の仕方も難しいところだと感じる。

しかしながら、この海外 PBL で 1 週間ほど共生した結果、メンバーとの仲や団結を深めることもでき、海外の見識を広げるだけでなく人間的な成長になった。

学生海外 PBL プログラム

行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

実施報告書

弘前大学人文学部２年
相澤　裕斗

１．海外 PBL における事前活動

①目標

現地での活動をより効果的なものにするため、また円滑に進めるために、あらかじめやっておけることを行う。

②成果

イベントで展示する物品を用意することができた。

新たに取材をして、津軽竹籠について知ることができた。

祭りやマンガなどの紹介文をフランス語で作り、チューターを務めているメンバーを通じて、フランスからの留学生に文章を添削してもらった。

③課題・改善点

全体的に、先生から問いかけを受けてから行動するという形だった。

→何をすべきかを自分たちで判断し、率先して行動する必要があった。

現地での予定をあらかた決めておくべきだった。

→現地に行ってから予定が入って、結局あわただしい日もあったように感じる。あらかじめ計画性をもってプランニングすると、より効率的に動けると感じる。

イベントのイメージを把握できておらず、企画の練り直しに時間を割いた。

→去年のメンバーの意見を十分に聞いて、できることを見定める必要があった。

イベント内容に、伝えたいという熱意をあまり持たずに決定したものがあり、結果そのトピックについての知識が曖昧だったりした。

→伝える者として、熱意と正しい知識をもつ必要があった。

２．ボルドーでのイベント（弘前紹介のイベント、日本館にて）

①目標

ボルドーの人々に、弘前の伝統や文化の魅力を知ってもらい、親しんでもらう。

②成果

アンケート調査を行ったことで、今回の反応を記録して次につなげる準備ができた。

折り紙を参加型で行ったことで、現地の人とのコミュニケーションを促進することができた。

三味線サークルのメンバーがいたため、ステージを行うことができた。

③課題・改善点

当日、朝のタイムキープを怠ったため、イベントのワークショップぎりぎりで会場に到着し、時間の余裕を持てなかった。

→タイムキーパーを決めたり、全員で注意したりするなどして、より余裕を持てるようにするべきである。また、前日までに準備作業をすべて完了できるように心掛けるべきである。

アンケート結果を見て、マンガについての評価があまり高くない印象を受けた。

→展示の仕方を見直すべきかもしれない。

こぎん刺しの紹介文がなかったことに気づかず対応できなかったため、魅力を正確に伝えることができなかった。

→使うものの再確認を徹底する必要があった。

３．取材活動、交流

①目標

現地に行かなければ知ることができないような情報を得て、日本でその魅力を伝えられるようにすると同時に、現地の人々との交流を図る。

②成果

Ⅰ：ボルドーでの街歩き

１８日と２０日の２日間行えた。１日目はモンテーニュ大学の日本語サークル員２名に協力してもらい、主に「元」港町としてのボルドーについて知ることができた。同日の夜には、その大学生とカードゲームなどを通じて交流することができた。２日目は日本館の進藤氏のご厚意による案内で、主にボルドーの建造物や、道端にあるちょっとしたオブジェについての知識を得られた。両日ともに歩いた道は大方同じところだったが、視点を変えるだけでまた違った知識を得ることができた。

Ⅱ：サンテミリオン村

マカロン発祥の土地ということで、１９日の午前中に現地に赴いた。修道院のマカロン（初代）を守り続けている店を見つけることができ、それについての資料も手に入れることができた。また、進藤氏にいただいたボルドーについての資料と照らし合わせながら、現地の建造物についても知ることができた。村の観光課に訪れたことで、めぼしいスポットを確認し、優先順位をつけたので、効率よく巡ることができた。

Ⅲ：アキテーヌ美術館

弘前大学に以前留学していたキャロルに協力してもらい、アキテーヌ美術館の見学をしに行った。ボルドーの歴史や考古学関係の資料が多かった。その中に、港町だったころの紹介をするところもあり、展示物や映像資料で街歩きの時に教えてもらったことの再確認をすることもできた。

Ⅳ：シャトー・パプ・クレマンの見学

弘前大学からの留学生の協力により、シャトーの見学をすることができた。見学ツアーのような形で、フランス語版と英語版の資料を入手できた。進藤氏から提供していただいた資料にも載っていたので、見学後も復習することができた。

③課題・改善点

Ⅰ：ボルドーでの街歩き

後から聞いた話だが、体力的に、現地の学生が見てもらいたかったものをすべて見て回ることができなかったようである。あらかじめどのような場所に行って何のことについて知ることができるかを把握できていれば、情報もスムーズに理解できるかもしれないし、どのくらいの時間を要するかも想像できたかもしれない。現地の学生との連絡の取り合いを、メンバーも含めて行い、情報共有をしておくべきだった。

Ⅱ：サンテミリオン村

あらかじめ行く場所や店の営業時間を調べておくべきだったかもしれない。実際にナディア・フェルミジエの店（元祖マカロンの店）は８時から営業していたようなので、少し時間を無駄にしてしまったかもしれない。

Ⅲ：アキテーヌ美術館

見学に費やす予定時間を超えてしまい、その後には進藤氏にボルドーの街歩きの案内をお願いしていたが、待ち合わせの時間に遅れてしまった。全員が自分勝手に見て回るのを控えるのと同時に、各々でタイムキープを徹底する必要があった。

Ⅳ：シャトー・パプ・クレマンの見学

説明者の喋る速度が速く、その場では情報を把握しきれなかったため、後日資料を１から見直すことが必要になった。あらかじめ見学するシャトーの名前と、そこの基本情報を少しでも知っておくことができていれば、もう少し内容をその場で理解できたかもしれない。

４．自己評価（満点：１００点）

①事前活動：６５点

集まりがあるときには、できるだけ日程を調節して積極的に参加できるよう努力した。

自ら率先して企画書を作るためのミーティングを提案し、作成することができた。弘前大学から留学中の三味線サークル員と連絡を取り合い、ステージ企画についての内容を話し合っていたことで、当日は問題なく企画を行うことができた。

津軽竹籠の紹介文のフランス語訳に時間がかかってしまった。もっとフランス語力をつけるべきである。また、自分たちが今回の PBL 活動で、何のためにどのようなことをして、何を得ることができるのかを具体化しておくべきだった。今回のような活動には、結果だけでなく、その結果につながった原因や手段も重視されるものなので、中途半端な想像をもって臨んではいけない。

②イベント：８０点

三味線のステージが始まる前に、練習も兼ねて屋外で２曲ほど演奏した結果、それを聴いた現地の人がイベント会場に入ってきてくれた。毎回の演奏終了後に、興味を持ってくれたフランス人の方々と、少しずつだが交流できた。余裕があるときに、折り紙のワークショップの補助を少しすることができ、それが交流にもつながった。

三味線を伝える熱意はあったが、それに伴う知識が十分になかった。伝える者とし

ても三味線の演奏者としても、深い知識を持っておくべきだった。演奏に専念していたからか、他のトピックについてのフランス人の反応を直接見る機会があまりなかった。もっと現地の人と交流して、生の声を聞きたかった。

③取材活動、交流：６０点

取材活動については、フランス語での説明を特によく聞き、理解できるよう努力した。ボルドーのことをワイン以外の視点から知ったことで、そのことを日本の人にも伝えてみたいと思えた。交流においても、たどたどしいフランス語ながらも、できる限り使ってみる努力をした。また、日本語の上級者と言えど、異質な言葉であるということに変わりはないと判断し、できるだけわかりやすい表現と聞き取りやすいスピードを意識して話した。

取材に関して、ボルドーの魅力を十分に理解できたかが不安である。特に博物館では、展示されているものをただ眺めていたような時もあったように思われる。取材活動は情報を手に入れることが最大の目的だと思うので、見ただけではあまり意味がない。それが一体どのようなものなのかを考え、重要だと思えばキャロルまた、協力してくれた現地の人は日本語が達者な人が多く、それに甘んじてか、活動の後半は少しフランス語を使うことに臆病になっていたような気がする。飽くまでも海外で活動しているので、言葉を使うという意識は絶やしてはいけない。

５．海外 PBL への感想

学びの場を海外に広げることで、国際的な視点を養うことができ、また地域についても知ることができた。海外を体験するのは２度目だが、今回は自分たちが主役となり、１つのプロジェクトを少人数で実践するという貴重な体験をすることができた。私がこのプロジェクトを通して養い得る、かつ最も重要だと思えたものは、１．自分たちで決定し、行動に移す力と、２．チームで行動し、１つの物事をやり遂げる力の２つであると考えた。１は、限られた時間の中で、自分たちが何をすべきか、それを行うとどうなるかを冷静に推測し、計画性をもって実行に移すという力である。２は、チームのメンバー１人ひとりが自分の役割に責任感を持つと同時に、相互協力や情報共有を徹底して、一人ではなし得ることが難しいことを実現する力である。この２つの力は、普段の大学の講義で得ることは難しいが、大学生としても社会人としても、かなり有益なものであると考える。頭で理解することはできるかもしれないが、このような力は、実践経験を積まなければ、確実に身に付けることは困難だと思われる。その点で、このプロジェクトは大変有益なものであったと考える。

以上

学生海外 PBL プログラム

行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

実施報告書

弘前大学人文学部２年
小笠原　詩帆

１．PBLにおける事前活動

①目標：

弘前大学の姉妹校があるボルドーにおいて、弘前の宣伝を通してボルドーの人たちに弘前の魅力を知ってもらうこと、および社会人として活躍するにあたって求められる情報収集・発信力の養成を目的とする。そのために前年度のPBL活動の記録を参考に展覧会イベントに備え、弘前の見所についての資料集めや説明文作りなどを日本にいるうちにできる限り終わらせることに努める。

②成果：

留学生による添削指導を受けながら、全てのフランス語での説明文を作ることができた。

③課題・改善点：

準備の開始がかなり遅かったため、出発直前まで急いでやることになるなど余裕をもった準備ができなかった。また、メンバーの全員がイベントの具体的なイメージを掴むことに苦戦しているように感じられた。

２．PBLの活動記録（日時はフランスの現地時間に基づく。）

①　10月16日

日本館にて、翌日のイベントに向け準備を進めた。

成果：

日本館のオーナーの大きな手助けをいただいたこともあり、レイアウト決めを余裕を持って終わらせることができた。そのレイアウトの決め方から、フランス人から見た日本の装飾のイメージを知ることができた。

課題・改善点：

オーナーの手助けをいただくまでは滞りが見られた。各々の役割分担を明確にできていないことが分かった。

② 10月17日

イベントを実施した。想像以上の訪問者数に、私たちスタッフ全員が終始目まぐるしい忙しさに追われた中、アクシデントもなく無事にイベントを終わらせることができた。私は折り紙のワークショップを担当していたため展示の様子を細かく伺うことはできなかったが、予約していた人数のほかに飛び入りの参加も多く見られ、時間外の対応をしなければならなくなった。展示、ワークショップ、三味線の演奏会と各コーナーに多くの人が訪れ、個人的な見解としてはイベントは成功したと思われる。

成果：

日本人がいない環境に一人放り込まれるという緊張や、言葉の壁という大きなハンディキャップがある中で手探りではあるが多くの人に折り紙を楽しんでもらうことができた。折り紙を教えるだけでなく、参加者からフランス語を教えてもらうなどして様々な形でのコミュニケーションを取ることに努めた。老若男女様々な人に折り紙を経験してもらい笑顔を見ることができたり、お礼の言葉を頂いたことでワークショップが成功するかどうかという不安を拭うことができた。想定外の忙しさに、他のスタッフが自主的にワークショップを手伝ったりするなど、スタッフ全員が臨機応変に対応していた。

課題・改善点：

当日、時間の確認を怠ったために時間厳守ができなかった。ワークショップには間に合ったことは不幸中の幸いだが、時間を守れないということは社会人として致命的な失態であるため十分に反省したい。また、展示品の説明文に記述の誤りがあることが前夜に判明した。弘前市を宣伝するために来たということは、私たちが弘前市の顔としての役割を担うということである。記述の誤りは弘前市への誤解を招くため、そのことに対する責任を自覚し、事前の調査をより厳密に行う必要があるということを学習した。

③ 10月18日

Grosse cloche というボルドーの象徴である大鐘楼城門を中心とするかつての城壁内を見て回り、ガイドを務めたLyaさん、Gautierさんの案内のもとボルドーの歴史を勉強した。

成果：

ワインの街というイメージの強いボルドーだが、もともとは大規模な港町であったということを知ることができ、私たちが弘前に帰ったあとボルドーの宣伝塔となるための情報を収集できたと思う。

課題・反省点：

ガイドを務めてくださった2人に質問する際に日本語に頼ってしまったが、あとにな

ってから冷静に考えるとフランス語で質問できたはずだったと分かり、日本語に安易に頼ったことを後悔した。自分には冷静さが足りないと分かった。

④ 10月19日
フランスで最も有名なワインの産地、St. Émilionに訪れた。

成果：
膨大な面積のブドウ畑だけでなく、中世の雰囲気を色濃く残した石畳の町並みを歩き回り、フランスの地理的条件を利用した建築技術、歴史、気候、現地の人柄などを五感で学んだ。

課題・反省点：
会話による情報収集の面では、熊野先生に頼りきりであった。事前のフランス語のブラッシュアップをもっと熱心に行うべきであった。

⑤ 10月20日
日本館のオーナーの一人であるSindoさんの案内のもとボルドー全体を見て回った。ボルドーの大きな教会であるサン・タンドレ教会や町並みについて学んだ。フランスにおける宗教観、人種に対する価値観、および建築の変化とともに現れた強力な結社、住人の社会的階級、職種などを知ることができるということなど非常に興味深いことを学び、よりボルドーの町並みを楽しめるようになった。

成果：
ボルドーにはなぜユダヤ人が多いのか、なぜ石造りの建築様式が採択されているのか、教会の構造にはどのような意味があるのかなどを自ら見聞きすることで、紙面からは感じ取れないボルドーを知ることができた。

課題・反省点：
内容の記録に手間取った。原因は、必要以上の情報を書き込みすぎているところにあると思われる。情報の取捨選択を素早く行い、のちにその中からいかに残りの情報をフィードバックできるかという力も身につけなければならない。

⑥ 10月21日
弘前大学の姉妹校であるモンテーニュ校を訪問し、日本サークル「Oyashima」の人たちと交流した。日本語とフランス語を混ぜながら交流したが、私は極力フランス語を使うことに努めた。サークルメンバーの一人に同行し日本語の授業もいっしょに受けることができた。

成果：
フランス語でのコミュニケーション力を大きく引き伸ばせた。また、そのことによって自分のフランス語に少しだけ自信を持つことができた。お互いの言語に不慣れであったが全力を尽くし、友好関係を築くことができたと思う。日本語の授業を受けることで、外国では日本語教育はどのように施されているのかを知り、弘前大学におけるフランス語教育との違いを相対的に知ることができた。夜はカードゲームや夕食作りを通して交流した。

課題・反省点：
Oyashimaサークルメンバーの日本語力を根拠なしに過信していた。自分の考えの甘さを反省したい。

３．自己評価

海外PBL活動自体の目標は、弘前の宣伝および活動を通してボルドー、弘前双方において情報を発信する力を養成することである。それについで私が立てた個人的な目標は、不自由さの経験を通して自らの見識を広め、コミュニケーション能力を上げ、そしてそのことを通して自分に自信をつけるということであった。100点満点で評価するとしたら、前者は80点、後者は85点としたい。その理由として、まず前者においてはイベントが成功したことが大きい。しかし自ら質問する機会が少ない受身の姿勢であったことが反省点として残ったため20点減点とした。後者においては、拙い語学力ではあったがそれをフルに活用し、交流を楽しむことができただけでなく、現地のあたたかい人柄を知ることができ、さらに自分にわずかながら自信をつけることができたことは大きな成果であると判断したため85点という少々高めの評価を付けた。残りの15点の理由は、事前のフランス語のブラッシュアップ不足である。

前年度のPBL活動をベースに、1週間という短い期間の中ではあったが反省点も含め実のある活動に発展させることができたと思う。私たちの活動が、次回のPBL活動参加者にとって参考になるものとなり、よりよい活動が行えるようになることを期待する。

→次ページ：参加学生による実施報告書続き

学生海外 PBL プログラム

行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

実施報告書

弘前大学人文学部 2 年
小野　梨理子

1．PBL における事前活動

①目標

イベントを成功させるために、話し合いや準備は早めにするように心がけ、直前になってから焦らないようにする。

②成果

ほぼ昨年と同様の内容であったため、何をするかはすぐに決まった。PBL に参加するのは 7 月から決まっており、8 月後半から活動が始まったのだが、サークルやバイトが忙しく、思い通りに活動ができなかった。

③課題・改善点

課題・改善点は二つある。

一つ目は、何をするか決めただけで、分担をしていなかったので、直前になって焦る形になってしまった。展示で使う説明文を添削する余裕がなかった。早めに分担し、出発の一週間前までには準備を完了させ、残った期間で細かいところの確認をすることができるよう、ある程度の猶予は必要だと感じた。

二つ目は、先生に頼ってしまった場面があったことである。学生中心であるのに、自発的に行動せずに指示を待っていた部分があった。分からないことは聞きにいくなどして、積極的に行動することが大切だと思った。

2．ボルドーでのイベント、交流(10/17)

①目標

積極的に交流し、自分も来場者も楽しめるようなイベントにする。

②成果

イベントでは、ほとんど展示会場を担当し、来場者の方とお話をしたりした。
日本語を少し話すことができるフランス人の子には、笑顔でゆっくり話すことを心掛けた。相手が言っている日本語は、多少間違っていても言いたいことは理解できた。話すことに自信がないからとコミュニケーションをとるのをやめるのではなく、間違ってもいいから一生懸命伝えようとする気持ちが大切なのだと知った。

私は日本からファッション雑誌を持って行って大八島サークルの子にプレゼントした。とても喜んでくれて、二人で雑誌を見ながら楽しい時間を過ごすことができた。国が違っても、同じもので楽しさを共有できたことがうれしかった。

③課題・改善点

フランス語を話すことができなかったため、話しかけられた時は自分の伝えたいことをジェスチャーや英語を使って伝えた。言葉が話せなくても、ジェスチャーで通じるということはわかったが、もしフランス語を話すことができていれば、展示会の説明をスムーズにすることができたと思うし、自信を持ってコミュニケーションをすることもできたはずである。悔しさを感じた。また、言語を学ぶことへの意欲が強くなった。

３．取材(ボルドー、サンテミリオン村、シャトー)

①目標

知識を深めるとともに、ガイドブックを読んだだけではわからない細かい知識や魅力を発信できるよう、情報収集をする。

②成果

相手の方のご厚意により、ボルドーの街を隅から隅まで散策できた。ガイドブックには載っていないような発見や、ただ見ただけでは気づかないようなところまで丁寧に説明していただき、とても勉強になった。サンテミリオン村では「マカロン」、シャトーでは「ワイン」に焦点を当て、発信したい情報を収集できた。

③課題・改善点

イベントの準備は出発前にしていたが、取材については直前まで予定が決まっておらず、現地で取材する内容を話し合った。そのため、何に焦点を当てればよいのか曖昧な部分があった。やはり早めに決めたほうが全員の一体感を作る上でも大切だと思う。

また、相手方との連絡がつかなかったことも今回の改善点である。

４．自己評価

《事前準備：50 点》

ほかの活動が忙しかったため、こちらの準備に自発的に参加できなかった。やるべきことはやったが、ほかの人よりも働けていなかった。

《イベント:60 点》

言葉は話せなかったが、交流しようと意識できたし、物品の準備やワークショップの手伝いなど、積極的に活動できた。

《取材:70 点》

体調を崩すことなく、毎回楽しみながら取材できた。

《積極性:70 点》

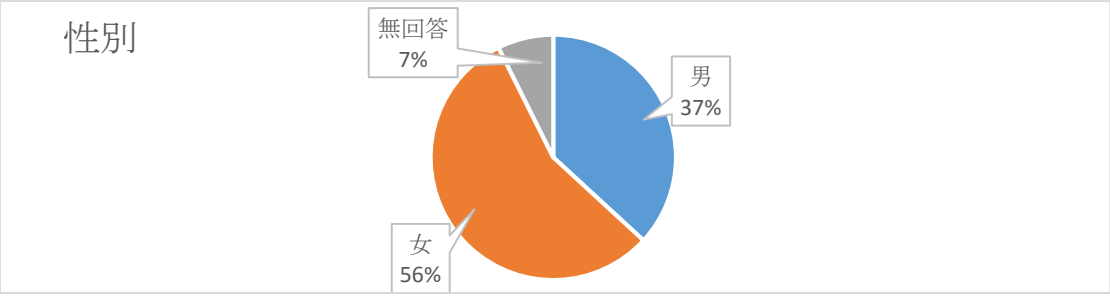
イベントや取材以外でも、常にまわりのことを意識しながら、自己中心的な行動はしないよう心がけたし、すべてのことを吸収するつもりで何事にも真剣に取り組んだため。

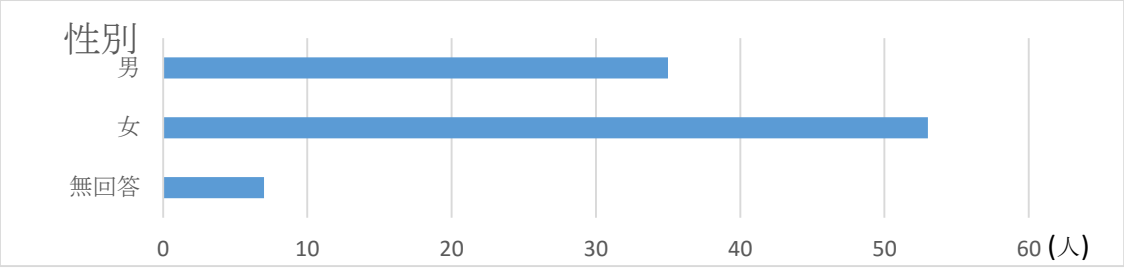
５．海外 PBL への感想

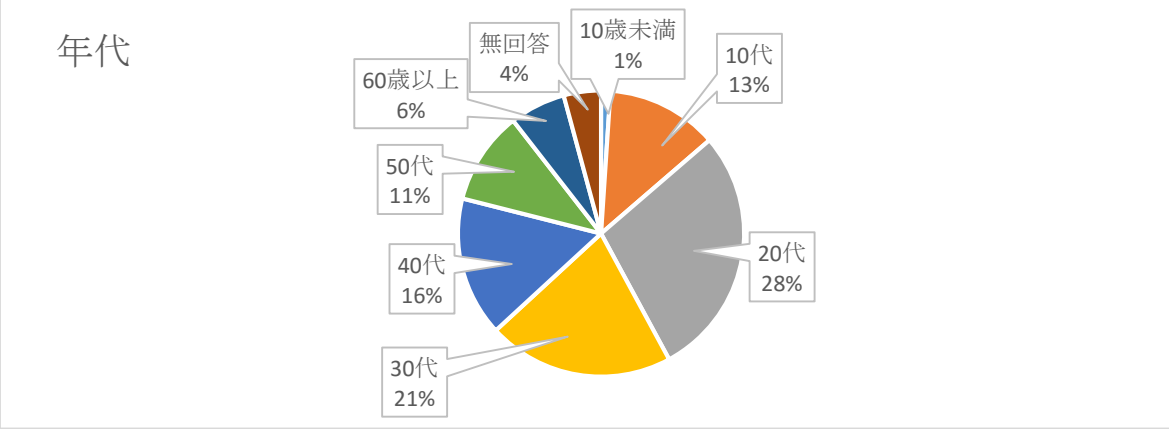
昨年の報告書にも書いていたが、やはりこちらに与えられる PBL の情報が少ない。学生主体とはいっても、情報が少ないと計画を立てることが大変であるため、ある程度は示してほしい。私は初めての海外であったが、今回の一週間で自分の価値観が広がり、とても大きな経験となった。参加してよかった。

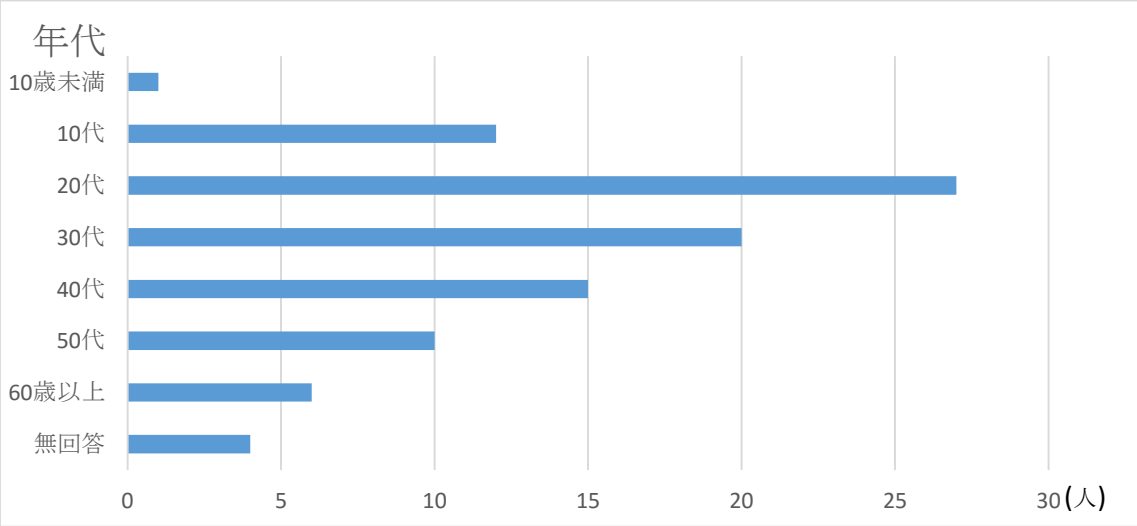
→次ページ：アンケート集計報告

2015 年度　海外 PBL：「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計

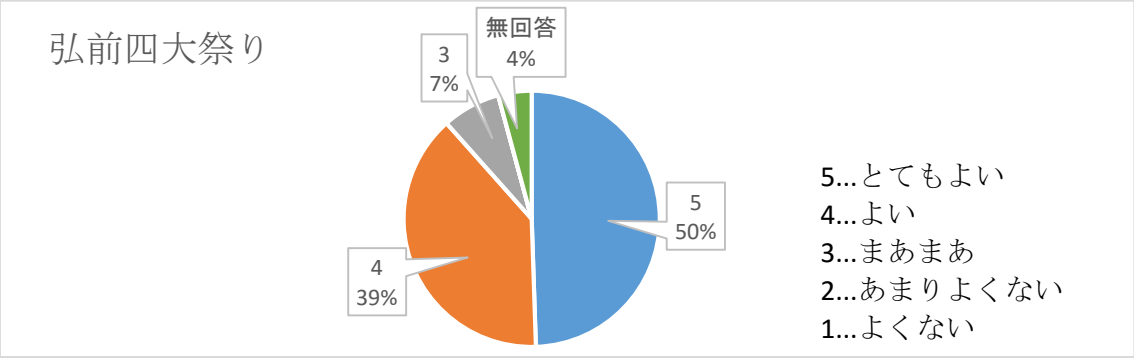


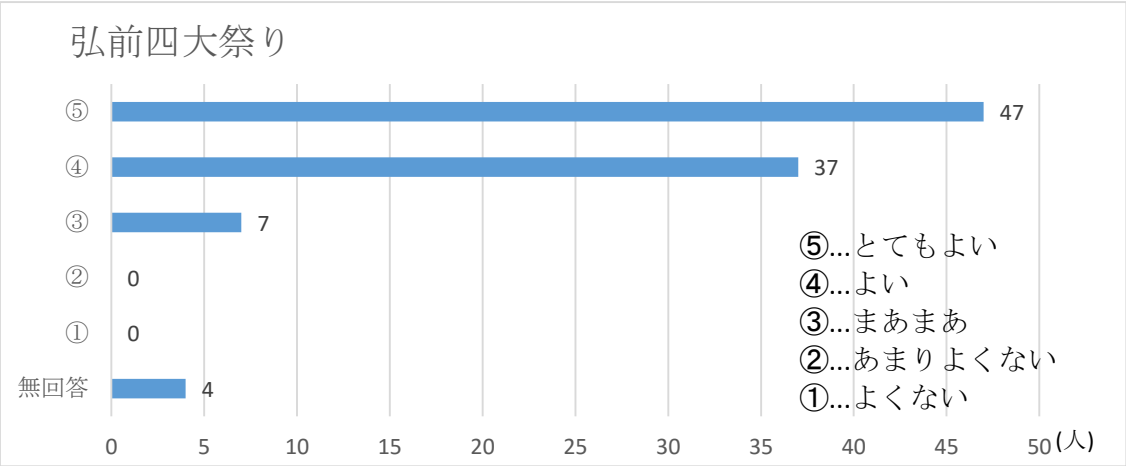


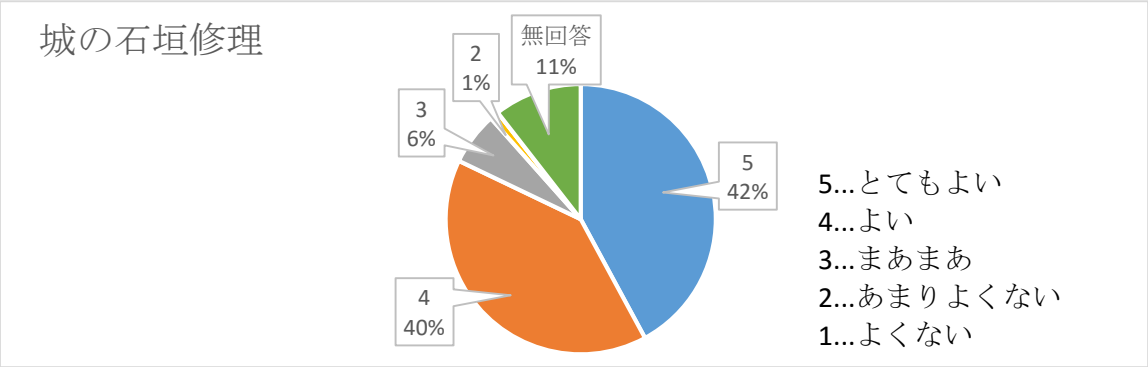


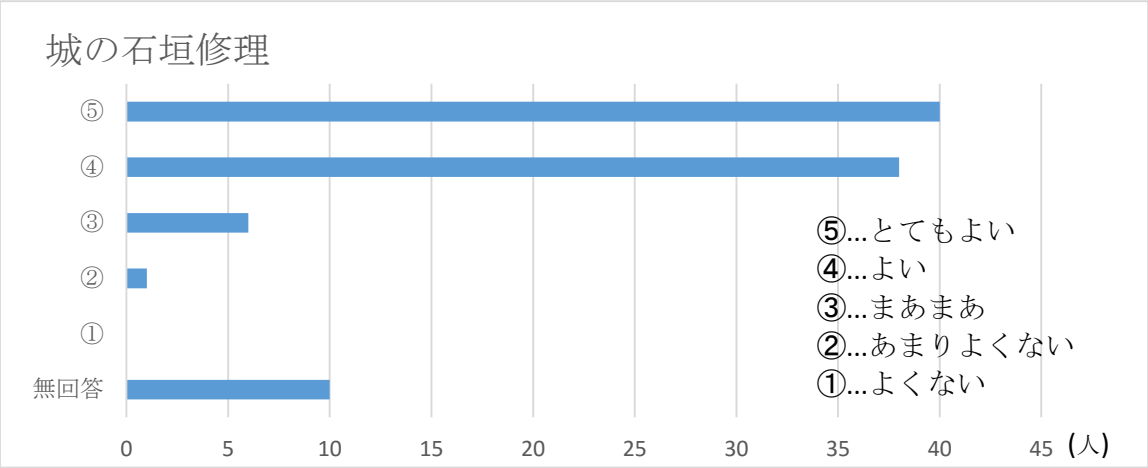


2015 年度　海外 PBL：「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計

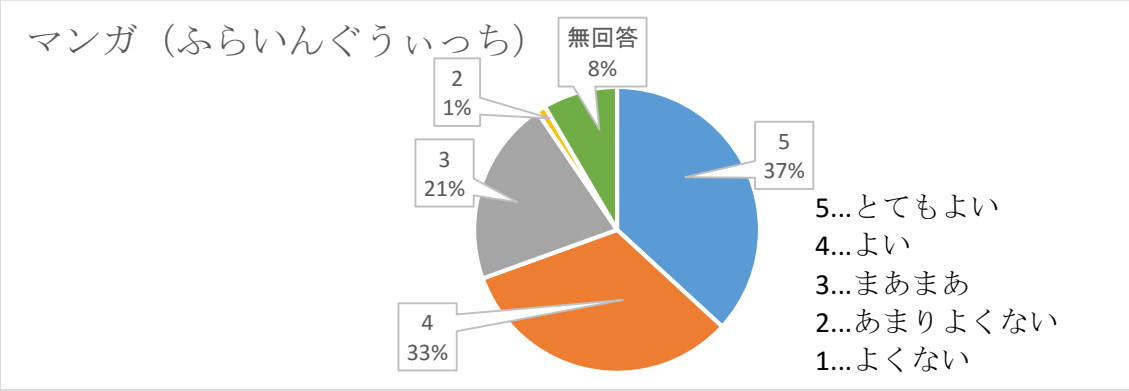


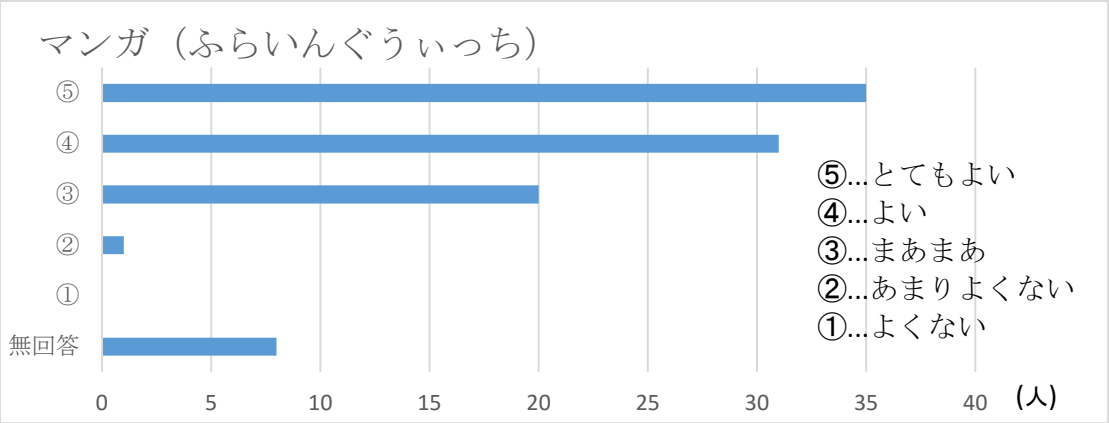


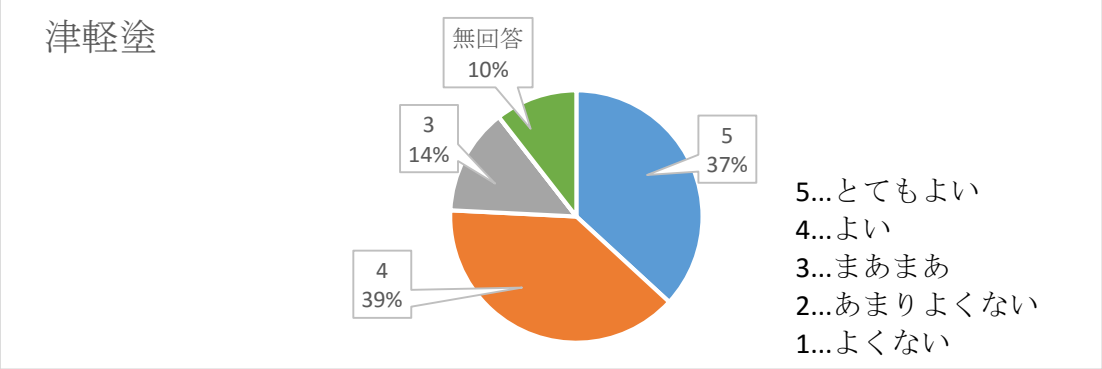


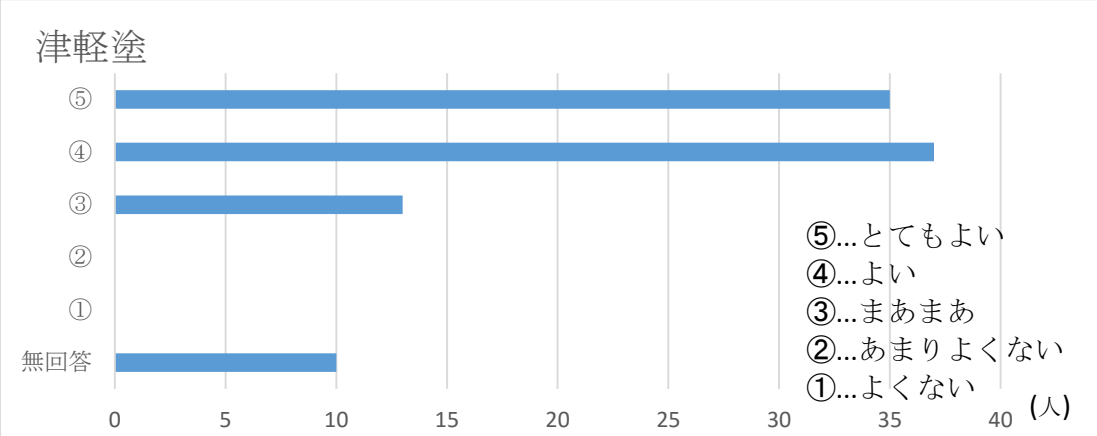


2015 年度　海外 PBL :「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計

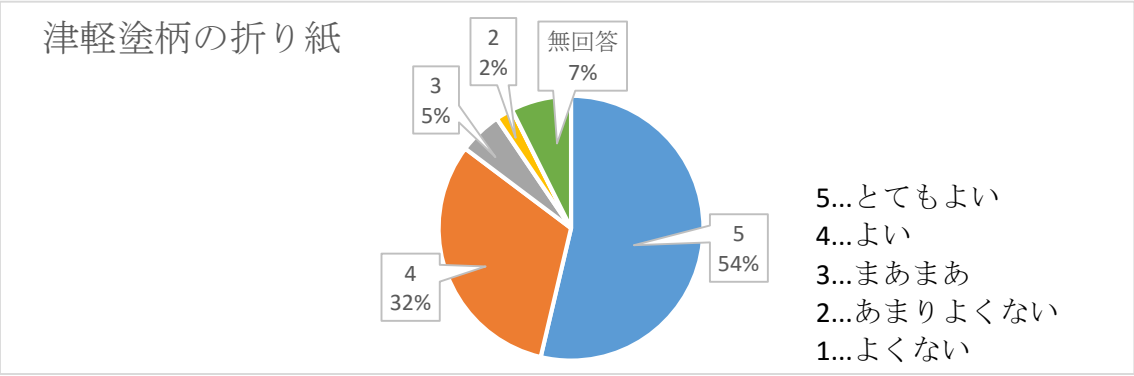


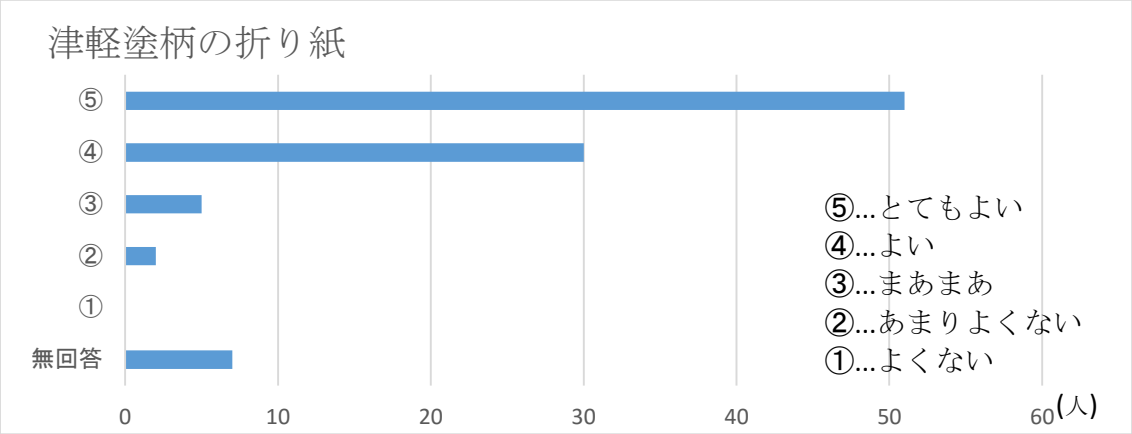


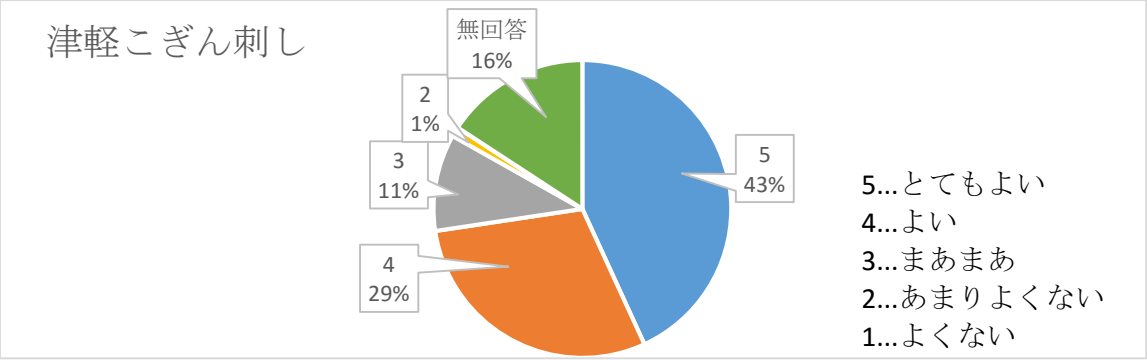


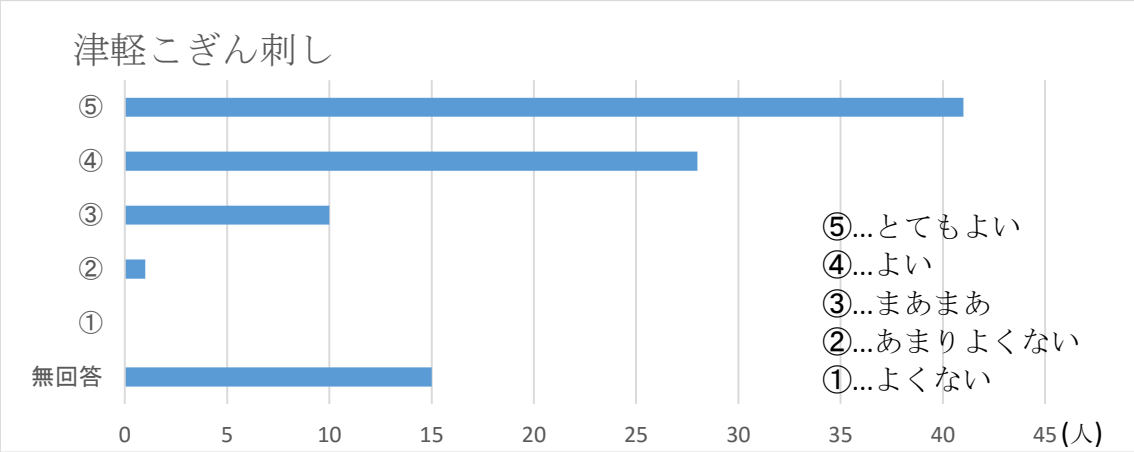


2015 年度　海外 PBL：「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計

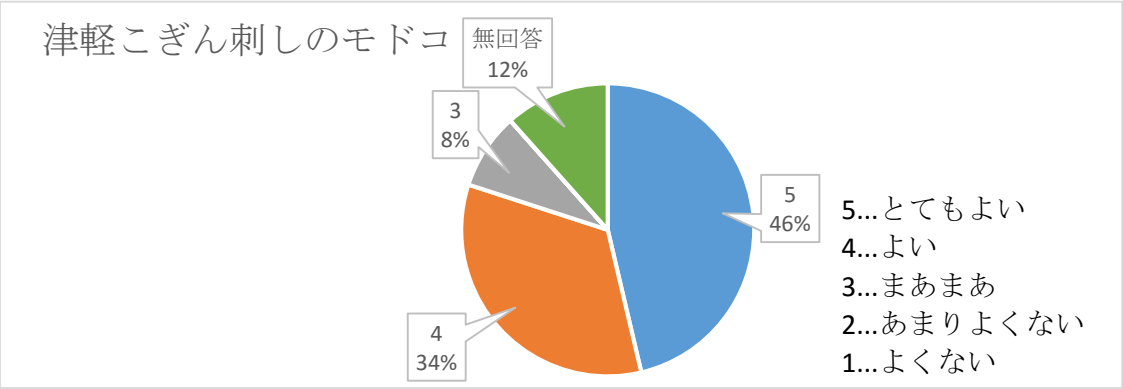


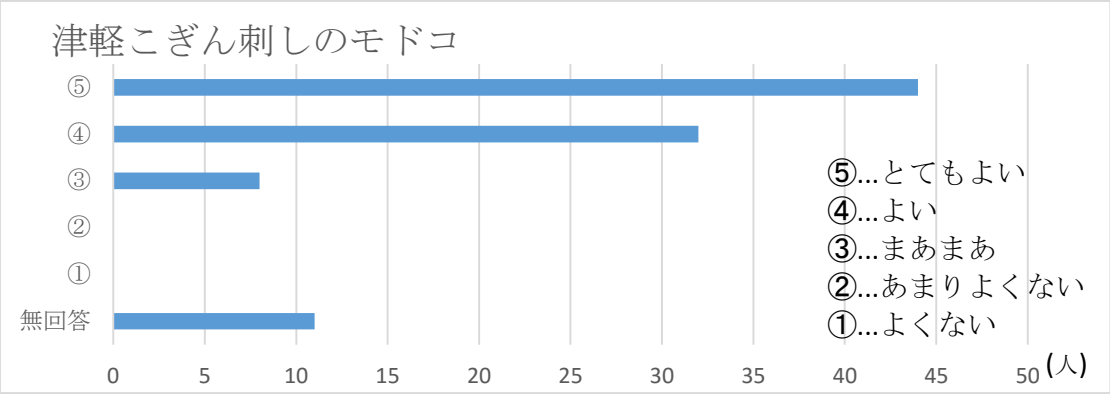


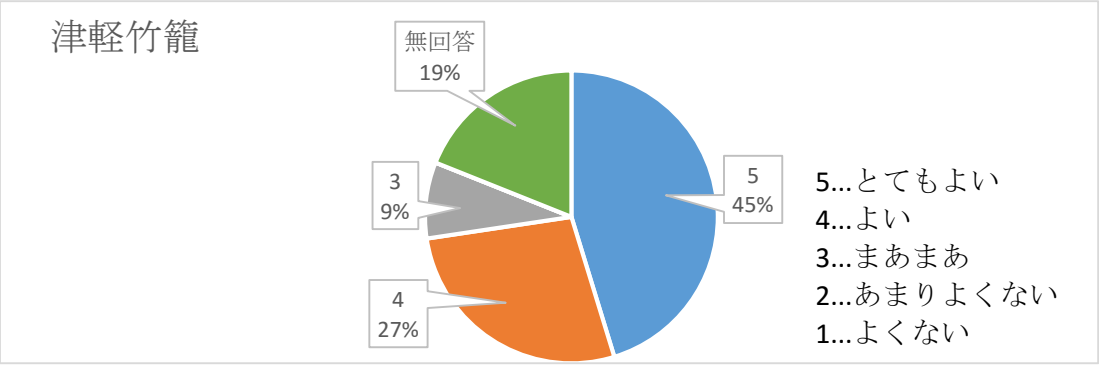


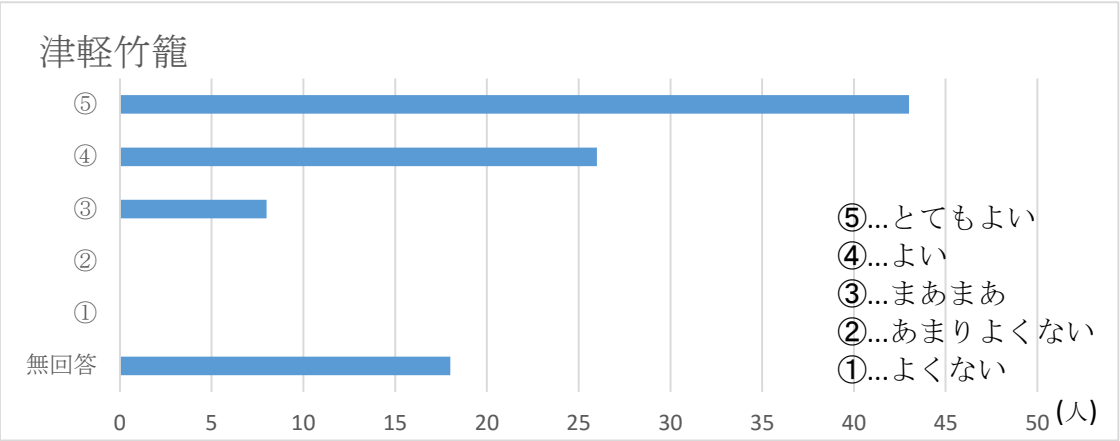


2015 年度　海外 PBL：「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計

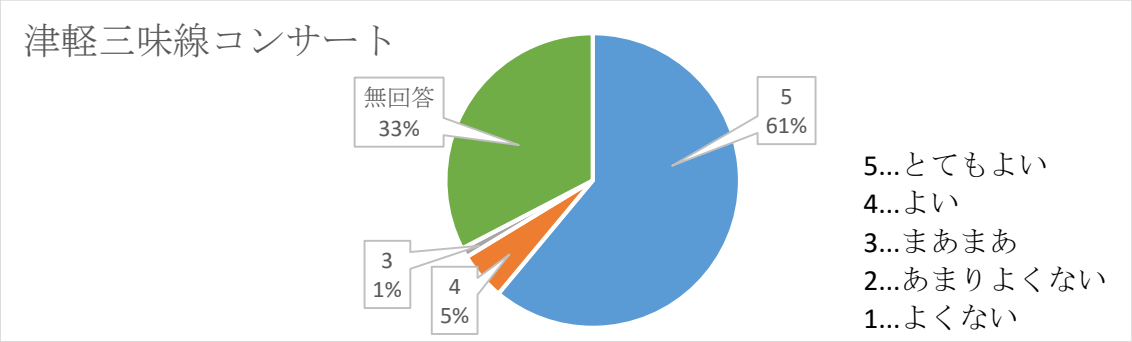


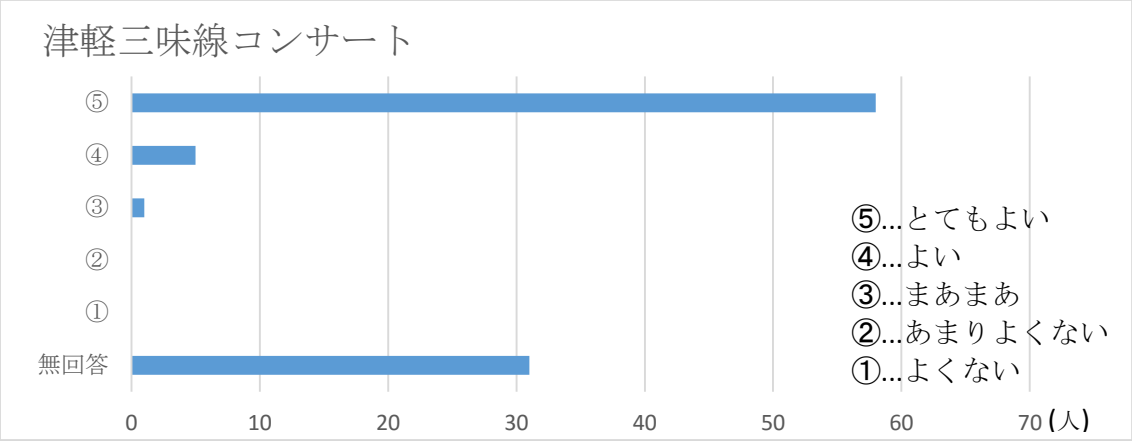


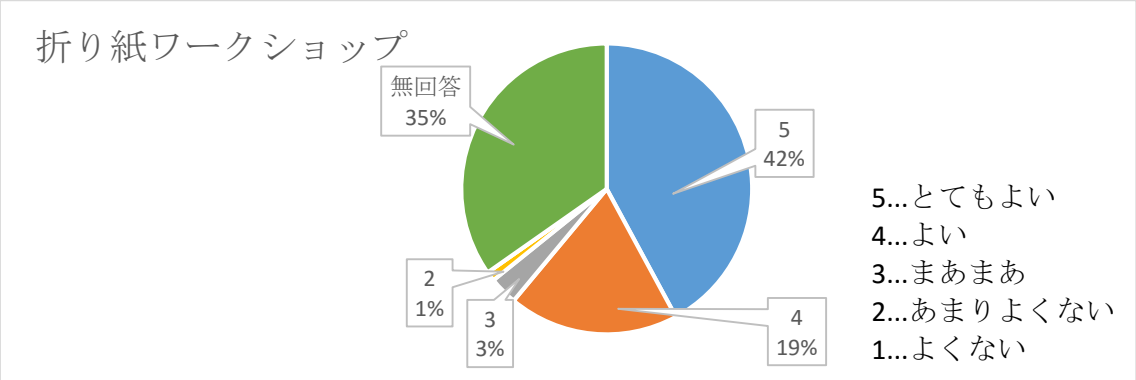


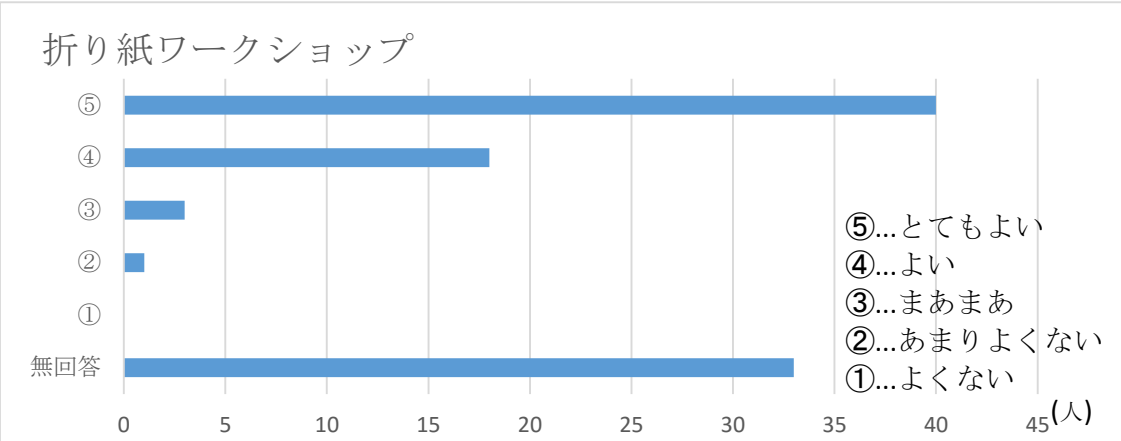


2015 年度　海外 PBL :「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計









2015 年度　海外 PBL :「弘前×ボルドー」プロジェクト
イベント（2015.10.17 実施）アンケート集計

■その他感想・気づいた点

・Très jolies expositions, les animateurs venus d'Hirosaki ont été adorables. Et j'ai découvert le shamisen que je ne connaissais pas et que me plait beaucoup.（とても素敵な展覧会でした。弘前からいらっしゃった方々もすばらしかったです。三味線というものは知らなかったのですが、とても気に入りました。）（10 代女性）

・Très joli, j'adore les origamis.（とてもきれい。折り紙大好き。）（10 代女性）

・Je n'ai malheuresment pas pu y(=atelier) participer. J'ai adoré le concert de tsugaru-shamisen! L'exposition m'a appris beaucoup de choses!（残念ながらアトリエには参加しませんでした。三味線のコンサートが大好きです！展覧会を通していろいろ学べました。）（10 代女性）

・Pas de remarques.（特になし）（10 代女性）

・Je n'ai malheuresment pas pu y(=atelier) participer.（残念ですがアトリエには参加できませんでした。）（10 代男性）

・Très bonne exposition. Il faut faire découvrir la musique japonaise aux Européens!（大変よい展覧会です。この日本の音楽はもっとヨーロッパに広められなければ！）（10 代男性）

・Très bien concert. Merci beaucoup.（コンサートがすばらしい。ありがとうございました。）（20 代女性）

・Des personnes très aimables, une très bonne présentation.　（スタッフの方々はとても感じがよかった。とてもよい展示だった。）今日はありがとうございました。ひろしま（→弘前?）はきれいな町ですね～。（20 代女性）

・Très belle exposition. C'était très intéressant.（美しい展覧会だった。とても面白かった。）（20 代女性）

・三味線かっこよかったです（20 代女性）

・J'adore!!（大好きだ！！（ハートマーク））（20 代女性）

・Merci de nous avoir permis de voir la culture de　弘前. C'etait très intéressant de voir et rencontrer des habitants.（弘前の文化を紹介してくれてありがとう。そこに住む人たちに会えておもしろかった。）（20 代女性）

・Très intéressant et coloré! Merci!（とてもおもしろくて生き生きとしてました。ありがとう！）（20 代女性）

・おもしろいですが、もっとがあればもっと良くなると思います。（？）（20 代女性）

・Très intéressant, merci! Je n'ai fais que l'atelier d'origami et le concert, désolé.（おもしろかったです、ありがとう！折り紙のアトリエとコンサートには行きませんでした。残念。）（20 代男性）

・Super événement, concert très intéressant. Et festif, bravo!（すごいイベントで、コンサートがとても面白かった。お祭りみたいだった。ブラボー！）（20 代男性）

・りんごのあめ、すごくおいしい。ソフィーかわいい！（20 代男性）

・Très bien, accueil chaleureux. Événement mémorable très bienvenu à Bordeaux. Merci beaucoup!（すばらしい、真心のこもった対応でした。記憶に残るようなイベントでした。ボ

ルドーへようこそ！ありがとうございました！）（20 代男性）
・Depaysant donne envie d'aller au Japon. Merci!（日本に行きたくなった。ありがとう！）（30 代女性）
・Merci pour cette belle présentation des arts japonais. Très belle exposition. Le concert est divertissant lors de la visite.（美しい展示品や日本の芸術品をありがとう。とても美しい展覧会でした。コンサートが、来たその時一番楽しかったです。）（30 代女性）
・Merci. Belle exposition.（美しい展覧会をありがとう）（30 代女性）
・Ateliers et expositions ludiques.（アトリエと展示がおもしろい）（30 代女性）
・Très bien!（すばらしい！）（30 代女性）
・Je n'ai pas essayer l'origami. Dommage! Merci beaucoup pour ce beau travail.（折り紙は試せなかった。残念！すばらしいイベントをありがとうございました。）（30 代男性）
・Très intéressant. Des produits de grande beauté. Très beau concert. Merci!（とても面白い。展示品が大変美しい。コンサートも大変すばらしい。ありがとう！）（40 代女性）
・L'accueil est parfait. Merci beaucoup.（対応がパーフェクトです。ありがとうございました。）（40 代女性）
・Très bien. Merci beaucoup. À bientôt.（すばらしい。ありがとうございました。さよなら。）（40 代女性）
・Equipe très agréable et souriante.Très bonne communication et présentation. S'il vous plait revenez bientôt. Bienvenue à Bordeaux. À bientôt.（チームの人たちはにこやかで感じがいい。とてもよいコミュニケーション（スキル？）と展示だった。ぜひまた来てくださいね。ボルドーへようこそ。そして、またね。）（40 代男性）
・Très beau concert de shamisen.（とても美しい三味線コンサートでした。）（40 代男性）
・Bonne "occupation de l'espace" avec l'exposition, les atelier et l'espace "musique"(concert). Très accueillan bonnes informations sur cette région et ses traditions culturelles. Très bonne attitude de la part des étudiants de la maison du Japon.（展示、アトリエ、そしてコンサートというよい空間の活用ですね。感じがよく、またこの地域や伝統文化についての情報がよいと思いました。日本館の生徒さんがたも大変よい態度でした。）（40 代性別無回答）
・Accueil sympatique- De magnifiques objets présentés. À bientôt.（親切な出迎えでした。心に残るようなすばらしい作品でした。じゃあまたね。）（50 代女性）
・すばらしい津軽じゃみせんコンサートでした。日本館前での響きは感動的でした。もっとフランスの方々に知って欲しいと思いました。（50 代女性）
・Agréable, bien organisée. Elle donne envie de se rendre dans cette partie du Japon. Des très jolies choses à voir.（感じがよく、てきぱきとした対応でした。日本のその地域（=弘前）に行きたくなります。目にして楽しいものがたくさんあるでしょう。）（50 代女性）
・Belle exposition.（美しい展覧会でした。）（50 代男性）
・Très intéressant, bonne approche du Japon traditionnel. Merci.（とても面白く、日本の伝統によく触れることができました。ありがとう。）（50 代男性）
・Très attractif. Beaucoup d'intérêt, Bien réalisé.（とても魅力的です。とても興味深く、し

っかり展示されていました。）（60 歳以上女性）

・Merci pour le patience et le gentillesse(折り紙についてのこと。)!　Merci aux artistes et une organisateurs de cette exposition de nous permettre d'admirer les magnifiques réalisation. Felicitations. Congratulations!（（折り紙のアトリエでは）我慢強く、そして優しく接してくれてありがとう！私たちにこのすばらしいものを見せてくれたスタッフと主催者さんへ感謝です。（イベントの成功、）おめでとう！）（60 歳以上女性）

・面白いです。本当にありがとうございます。（60 歳以上女性）

・Merci de votre accueil（迎え入れてくれてありがとう）（60 歳以上男性）

・L'exposition est très belle et intéressante. Elle est bien compléteé avec le concert de shamisen. Elle m'a permis de découvrir une région du Japon que je ne connaissais pas.（展覧会はとても面白かった。三味線のコンサートとよく補い合っている。日本の知らなかった地域を知ることができた。）（60 歳以上男性）

・L'exposition comporte de très belle chose (lisses（←解読自信なし）-papier). Elle est très riche et le concert si remarquable, avec une musique très nuancée, beaucoup plus intéressante que ce que j'avais entendu jusqu'à présent. J'ai rencontré des Japonais parlant français et des Français parlant japonais.（（最初の文は訳せませんでした。）展覧会はとても豊かで、コンサートでの今まで聞いたことのない深みのある音色は注目すべきすばらしさ。フランス語を話す日本人にも、日本語を話すフランス人にも会うことができました。）（女性年齢無回答）

・Riche, colorée, et dynamique. Merci beaucoup. ARIGATO（豊かで鮮やかで、そして生き生きとしていました。ありがとうございました。ARIGATO）（性別無回答年齢無回答）